

# 文化財保護課

平成 3 年度

## 市内遺跡発掘調査報告書

1992. 3

前橋市教育委員会



## 序

群馬県前橋市は、関東平野の北西端に位置し、北に名峰赤城山を望み、坂東太郎の名を冠する利根川が市域を南北に貫流する「水と緑」をキャッチフレーズにした人口28万を有する県都であります。

市の歴史は古く、初めてこの地に人々が住み始めたのは、今から2万年以上も前の旧石器時代であるということが、発掘調査の成果から分かっております。長い歴史の中でも特に古代においてはその古墳の多さから「東国の奈良」、また近世においては、江戸幕府を守る要衝の地として「関東の華」と称され、さらに近世末期から明治・大正時代にかけては、我が国の生糸貿易を支える養蚕製糸業の中心地として発展してきた歴史の薫り高い街であります。

近年における各種開発の波は、首都圏に含まれる本市においても著しく、開発と埋蔵文化財保護の取り扱いがクローズアップされてきております。

この報告書は、平成3年度に前橋市教育委員会が市内遺跡発掘調査事業として国庫補助を受け実施した、各種開発に伴う遺跡の範囲確認調査、並びに遠見山古墳周堀推定地内における緊急発掘調査の成果をまとめたものであります。確認調査の実施に伴い、不確定であった遺跡の分布状況が明らかになってまいりました。また、未調査であった総社古墳群中最大規模を誇る遠見山古墳の周堀範囲の一部が明らかになり、大きな成果を上げることが出来ました。

本事業を実施するに当たり、御協力をいただきました土地所有者をはじめとする関係各位に深く感謝するとともに、市民の皆様の文化財保護に対する一層の御理解を祈念致すところであります。

平成4年3月

前橋市教育委員会  
教育長 岡本信正

## 例　　言

1. 本報告書は、平成3年度に発掘調査及び試掘調査を実施した市内遺跡の概要をまとめたものである。
2. 本事業に係る経費は、平成3年度文化財補助事業として、国庫補助、県費補助及び市費により計上されている。
3. 本報告書では平成3年7月の事業開始より平成4年1月末日までの調査の概要を収録してある。2~3月分については平成4年度の報告書に掲載する。
4. 発掘調査は前橋市教育委員会文化財保護課で行なった。

調査 井野誠一、新保一美、飯島勝亥

整理 井野誠一

5. 発掘調査に係る記録類、出土遺物等は前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
6. 遺構測量は株式会社アカギ・サーヴェイに依頼した。  
墳丘平面図は平成2年度に作成した図を使用している。
8. 発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の方々にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝する。  
神谷雄二、志塚昭、飯塚登、岡田恒宏、綿貫綾子、神谷寿男、飯塚誠、木津博明  
大塚美智子、戸丸澄江、柴崎まさ子、神保千代子、生形かほる、赤城美代子

## 凡　　例

1. 各遺跡の略称は次の通りである。  
T：試掘トレンチ W：溝
2. 遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。  
遺構平面図1/666 断面図1/700 遺物1/4
3. 遺構平面図及び文章中の方位は全て真北を基準とする。

# 目 次

序

例 言

凡 例

目 次

1. 平成 3 年度調査地一覧表.....	1
2. 平成 3 年度調査地位置図.....	2
3. 城川遺跡調査報告書.....	3
①経過.....	3
②周辺の遺跡.....	3
③調査の概要.....	4

## 図 版 目 次

城川遺跡遺構平面図.....	5
△ 地層断面図.....	6
遠見山古墳復元想定図.....	7
遺物図版(1).....	8
△ (2).....	9
写真図版(1).....	9
△ (2).....	10
△ (3).....	11

確認調査地一覧

No	所 在 地	開発面積m <sup>2</sup>	調査日	調 査 概 要
1	新堀町48	1,555	3.7.25	遺物、遺構ともに検出されず、軽石層なし
2	富田町2286-4.5	3,306	3.7.26	カクランの土層、奈良・平安の土師器片数点
3	総社町総社城川1405	908	3.8.9	建物部分には近世の溝2条、北側に古墳の堀確認
4	総社町総社城川1405	908	3.8.30	3号で確認の堀の規模、走向を調査。(城川遺跡)
5	中内町78-1	4,228	3.9.5	遺物遺構ともに検出されず、軽石層なし
6	筑井町28-1外	1,710	3.9.9	土坑、縄文土器片、奈良・平安時代土器片検出
7	今井町165-1	4,173	3.9.10	遺構なし、奈良・平安時代土器片数点
8	大手町2-4-12	280.5	3.9.17	前橋城土壘盛土確認
9	宮地町6-5	2,287	3.10.24	遺物、遺構ともに検出されず
10	上新田町678外	1,308	3.11.20	古墳時代土器片数点。
11	下新田町556外	7,000	3.11.18・19	B軽石層(水性二次堆積)検出。遺物、遺構なし。
12	公田町682-1外	2,005	3.11.12	B軽石層なし。
13	稻荷新田町321-1外	3,830	3.12.11	遺構・遺物とも検出されず。
14	北代田町569-1外	4,248	3.12.12	遺構・遺物とも検出されず。
15	今井町174-4	1,557	4.1.14	旧河川検出・走向確認。
16	総社町総社城川1638	1,053	4.1.27 ～2.1	遠見山古墳周堀確認。堀の規模、走向を調査。(城川遺跡)

2. 平成3年度調査の概要（位置図）



### 3. 城川遺跡調査報告書

#### ①調査に至る経過

城川Ⅰ遺跡（総社町総社字給人城川1405）は平成3年7月23日付で神谷雄二氏より宅地造成（個人専用住宅）に伴う埋蔵文化財確認調査の依頼が出され、8月9日に確認調査を実施した。

その結果、古墳の周堀からは建物ははずれるものの、近世の溝が確認されたため調査を実施した。また遠見山古墳周堀については範囲確認調査を実施した。調査は8月30日に実施した。

城川Ⅱ遺跡（総社町総社字給人城川1408）は平成4年1月10日付で神谷雄二氏より宅地造成（個人専用住宅）に伴う埋蔵文化財確認調査の依頼が出され、城川Ⅰ遺跡の状況から建物部分は周堀の外になると考えられたが、遠見山古墳墳丘が旧状と大きく変更をうけており、不明な点が多くあるため南西部の周堀の状況を把握するため範囲確認調査を実施した。

調査は平成4年1月27日から30日まで行なわれた。

#### ②周辺の遺跡

城川遺跡の所在する総社町総社字給人城川はその地名の示すように江戸初期この地にあった総社城の城内に位置する。遠見山古墳の遠見山の名称も城の遠見に使われたことによるものと伝えられる。そのため墳丘はかなりの改修をうけている。墳丘上には近年まで遠見の跡と思われる建物の基礎があったとのことである。

遠見山古墳の北東隅へ西からのびる小道は、総社城の大手門からのびる道と伝えられ、この道が墳丘にあたる地点より墳丘上にのほる道があったとも言われる。

また、総社城築城以前または築城後も周辺には古墳が存在していたようである。遠見山古墳の北100mの地点は通称「石山」<sup>イシヤマ</sup>と言い河原石が多数出土する地点である。15年ほど前に農作業中に盾・馬？・円筒埴輪等が出土している。時期は5世紀代のものか。明治期に削平されたとの話もあり仮称「総社石山古墳」と考えてもよいと思われる。

他にも周辺の地下に石が埋まっているとの話は多く、他に古墳の存在する可能性は高い。

#### ③調査の概要

##### 城川Ⅰ遺跡

遠見山古墳墳丘の南東部下にあたる。事業地内に3本の試掘トレンチを設定し、遠見山古墳周堀の確認調査を行なった。旧地形で墳丘にそって一段低く旧水田（現畑地）がつらなっており、ここが周堀と考えられた。

南北に設定した第1・第2トレンチでの調査の結果、第1・2トレンチとも北端に旧用水路が通り墳丘を若干削っていたものの、現墳丘下より1~2mほどで周堀の立ちあがりがあり、この部分の形状は大きくかわっていないものと思われる。

一部露出していた墳丘盛土中にはC軽石を含む黒色土が確認された。墳丘地山と考えられる。周堀の南の立ちあがりは第1トレンチでは確認された。ロームの地山である。周堀の断面は急

な落ち込みと平坦な底をもつ。

南の立ちあがりにはぼ接し、若干上端を削平して、近世と考えられる溝が検出された。周堀よりも深く掘りこまれていた。土が軟弱なため底まで検出できなかつたが、箱型の断面をもつものか。

この溝は第2トレンチでは周堀の南の立ちあがりを完全に削平していた。

第1トレンチの南への延長部と、中間地点より東への第3トレンチではB軽石を含む溝1条が検出された。第1～3第トレンチでの遺物は埴輪のみで、全て原位置より動いているものであった。

#### 城川Ⅱ遺跡

遠見山古墳の南から南西部にあたる。南北に第4、第5トレンチを設定したほかに、土地所有者の了解を求め確認用のサブトレンチを設定した。(6～9トレンチ)

第4・第5トレンチでの確認調査の結果、墳丘の南西部は大規模な削平をうけていることが判明した。南西端では9mに近い。

第8・9トレンチでは周堀の南の立ちあがりの状況がつかめ、第6・7トレンチでは周堀及び墳丘の南西コーナーが確認できた。

第1・第2トレンチで検出された近世の溝は第4トレンチでは確認できなかつた。

第1～9トレンチでの調査結果によって遠見山古墳の旧状を想定した。想定墳丘の全長81m、前方部巾49m、後円部径42m。周堀は上端巾約10mで、堀を含めた総長は100mと想定される。

なお、想定は現墳丘の最高部を基線に対称形の築造と考えたものである。

また、第4・6トレンチの周堀最下層からFAが検出された。築造後かなり早い時期の降下であると考えられる。

このFAは第4・5トレンチ南に東西に通る溝の下部よりも検出されている。

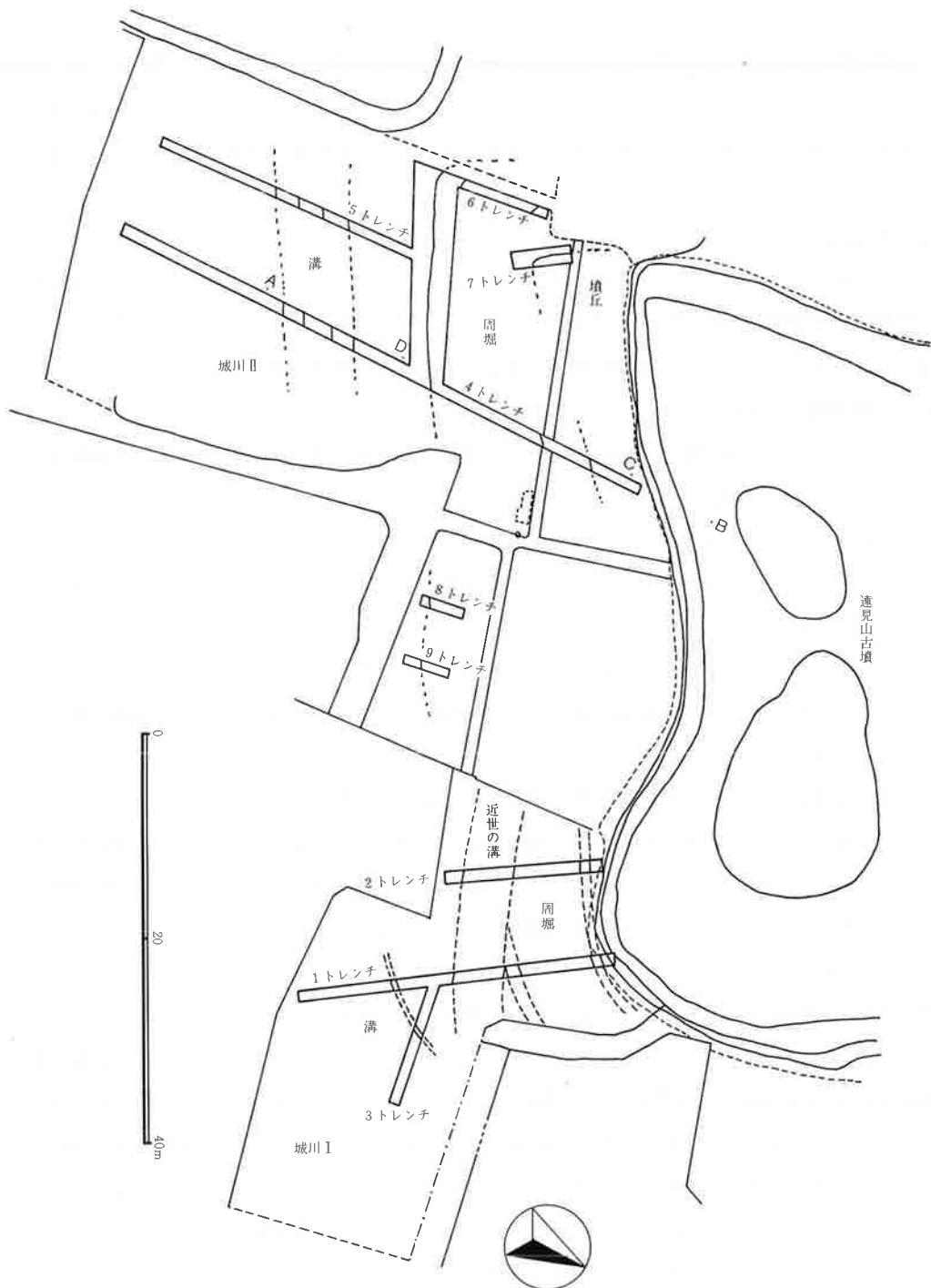
遠見山古墳は未指定の古墳であるうえ、後世の変更で墳丘の形状もかわっており、調査もなされていないためその状況については推定の点が多かつた。今回の調査もトレンチによる範囲確認調査で、資料も十分ではないが、遠見山古墳解明の一歩となるものと考える。

#### ④遺物の概要

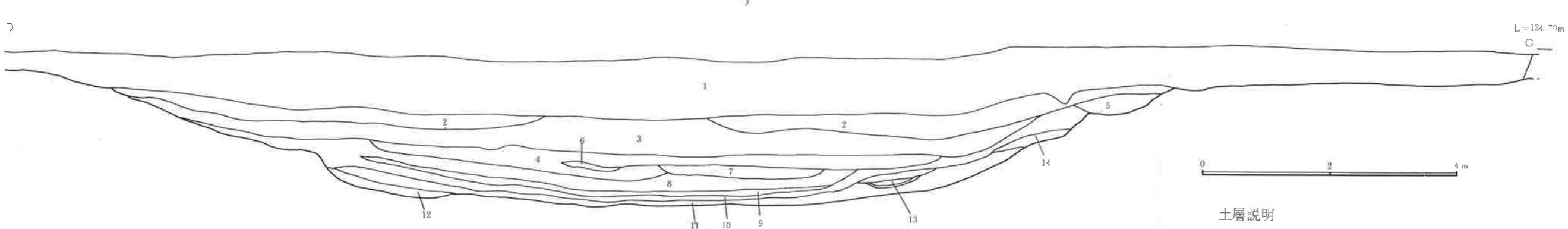
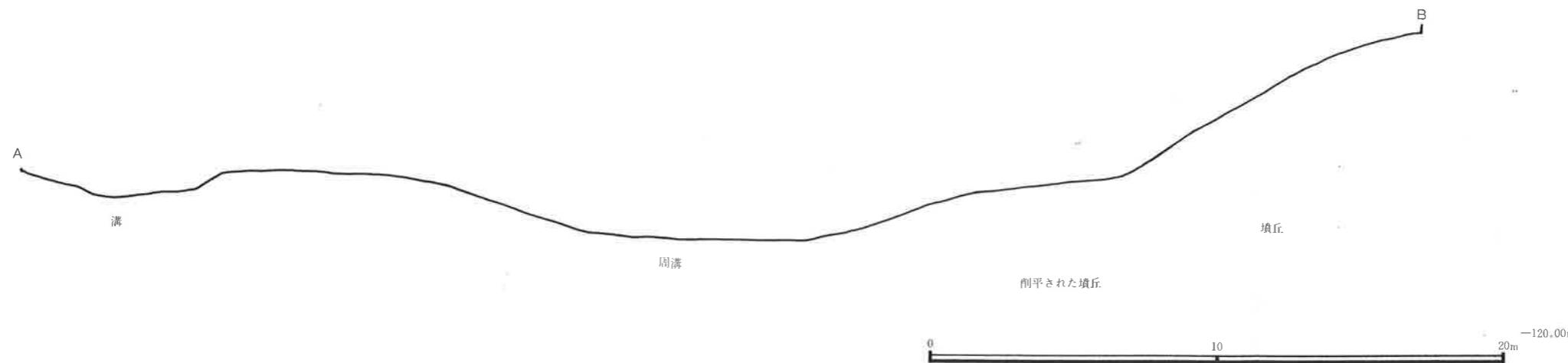
検出された埴輪は全て円筒埴輪であるが、大別すると二種類に分けられる。

赤色塗彩がみられるものは、2・4・9・10・13・15・25・38・39である。これらは焼成良好で褐色を呈す。塗彩は確認できないが同じ焼成のものに、1・3・5・11・12・14・16・36・41・43がある。この焼成のものは多くが突帯の断面形が平坦な台形を呈するものが多く、他は方形の断面を呈するものが多くみられる。前者のうちには突帯の上面が窪んでいるものも含まれており(3・12・14・41)、さらに細かい細分が可能である。またすかし孔が確認できるのは25・26・37・43の4点であるが、25と他では孔の加工が異なり、25は内径が狭くえぐられている。25は前者の一群に含まれる。

城川遺跡調査地位置図



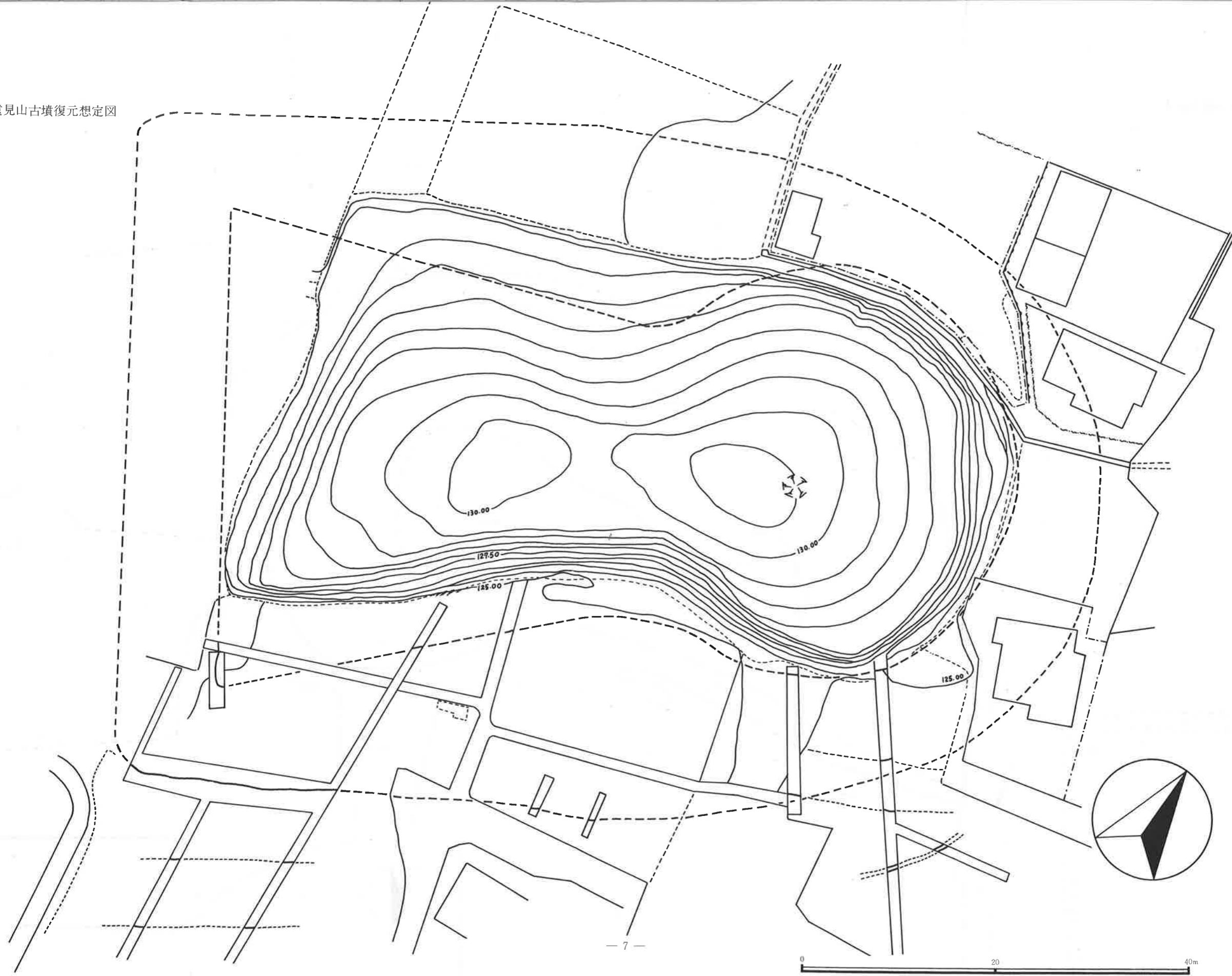
城川遺跡断面図



土層説明

1. 暗褐色砂質土層
2. 黒灰色砂質土層 小礫含む、締りあり
3. 黒褐色粘質土、締りあり、Bを含む
4. 褐色粘質土と砂の混土、F Pまじる
5. 3層に同じ
6. 暗褐色粘質土と砂の混土
7. 4 + 8層の混土
8. 黒色高締粘質土
9. FA層
10. 黒色粘質土
11. 暗黄褐色砂質土
13. FA層
14. 暗褐色粘質土

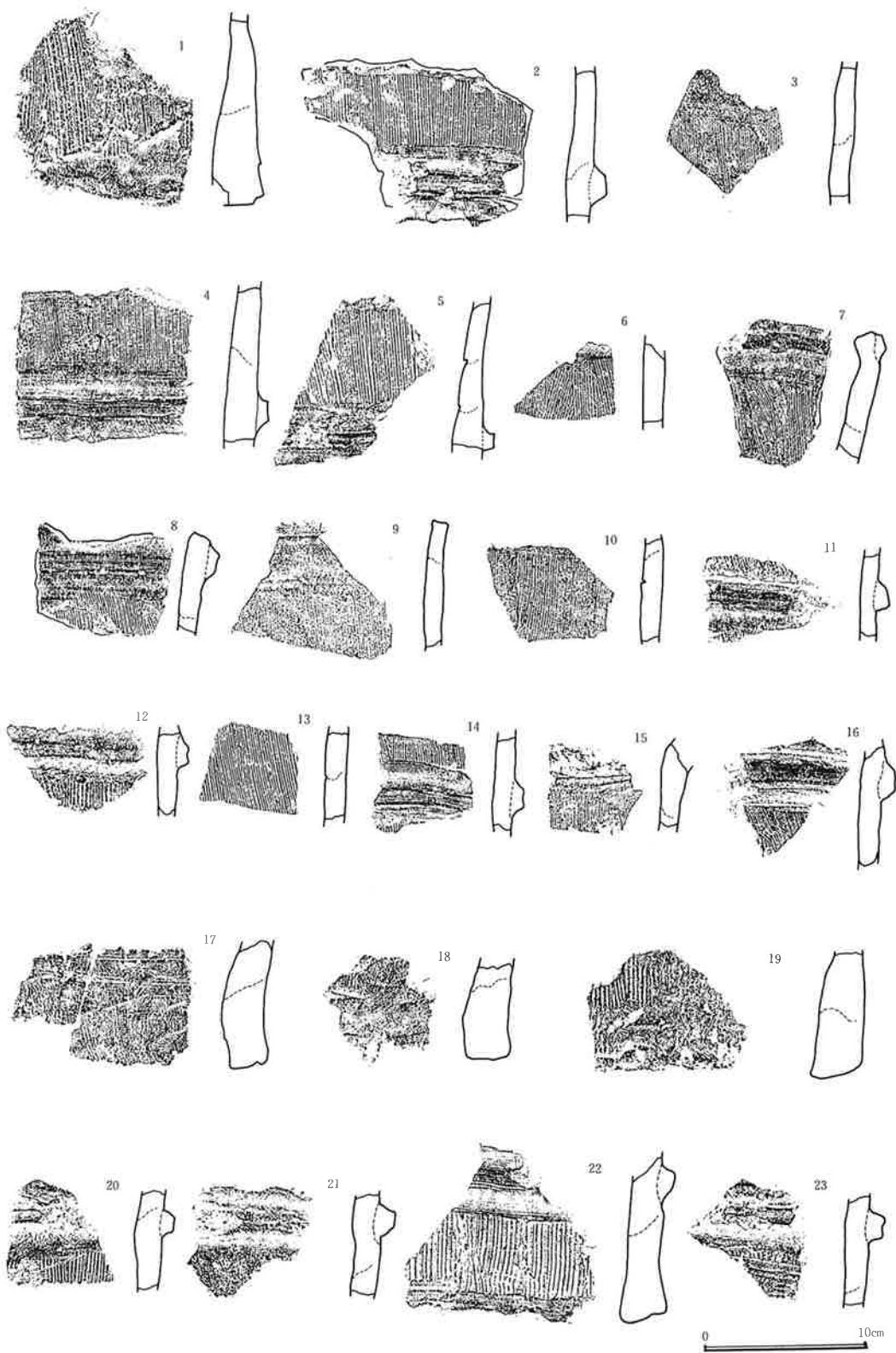
遠見山古墳復元想定図



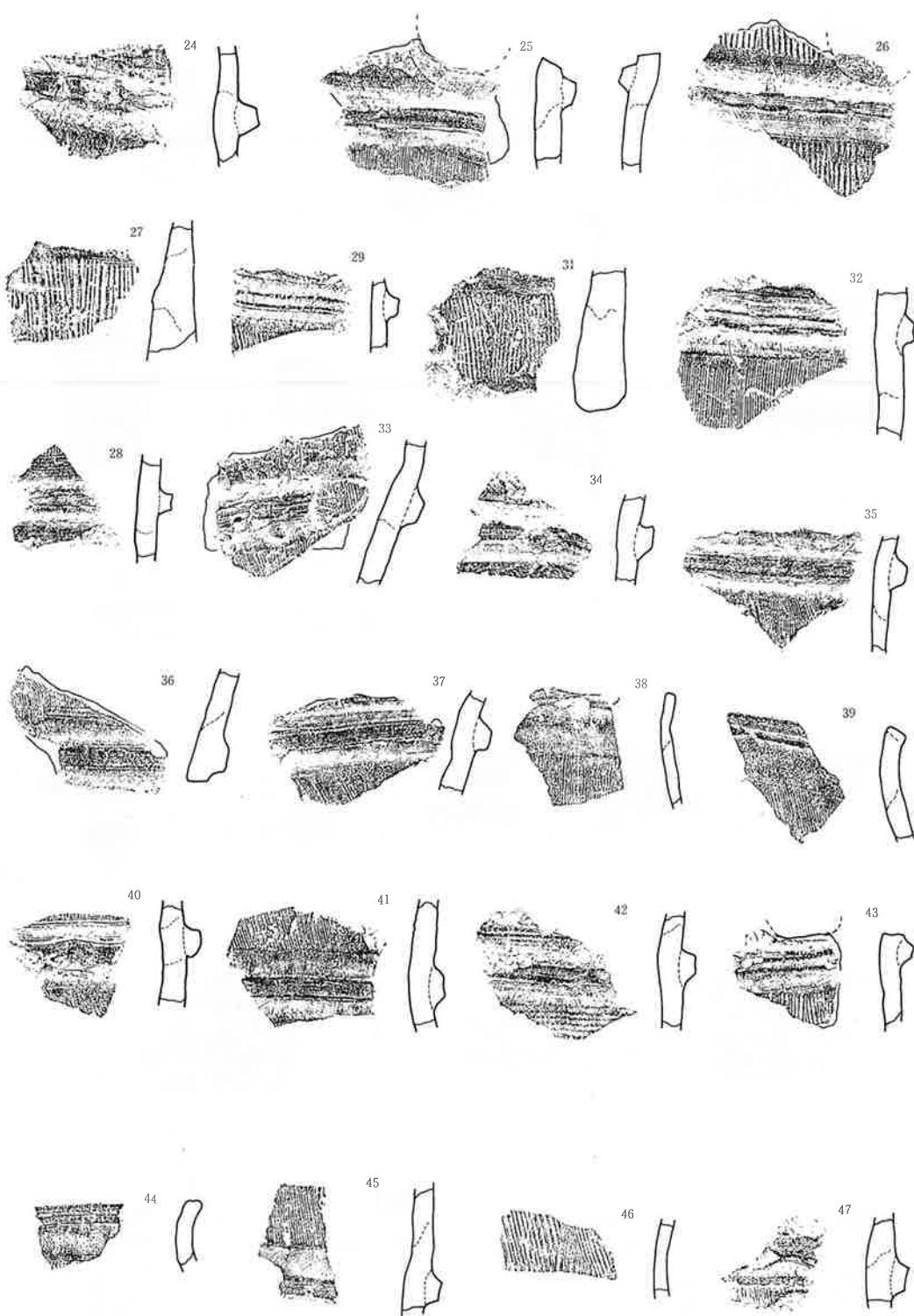
遠見山古墳平面図



城川遺跡遺物図版（埴輪）



城川遺跡遺物図誌



0 10cm

写真図版(1)



城川遺跡



遠見山古墳墳丘の土  
(黒色土中に見えるのがC軽石)

写真図版(2)



周堀南立ちあがり南西部



周堀南西コーナー一部

写真図版(3)



周堀



墳丘南西コーナー部



遠見山古墳南側全景  
(城川丁・日遺跡)

市内遺跡発掘調査報告書

印刷 平成4年3月20日

発行 平成4年3月30日

発行 前橋市教育委員会

印刷 株式会社前橋印刷所



C. C.

C

C

1-10  
201  
13